

カーオーディオのオートマテックチューニングの開発について； 2016年8月

コンシューマ商品としての、音質のチューニングでは、最も難しい部類に入る、と考えられます。

{ドアパネルへのスピーカ埋め込み} {多くの複雑な機構部品} {後部座席への配慮}
{左右に偏った座席} {狭い空間} {走行騒音} {広範囲な温度変化} {スピーカの低音再生限界}
{通勤、業務用、旅行、ドライブなど、幅広い用途} {高い使用頻度}
{多種多様な楽曲、ニュース天気予報、講義、案内など幅広い信号}
{幅広いリスナー層の 予想される平均的好み に対応した 標準音質 と ユーザの選択範囲}
などなど、数多くのファクターに影響される環境で音質が決められます。

音質の チューニングと決定 に関わる人の {熟練度、知識、チューニングの確認用楽曲、好み}にはバラツキがあって、事実、市場にある多種多様な車に、多種多様な音質があります。

オートマテックチューニングは、商品企画としての標準状態 と リスナーの選択範囲 の双方を役割分担させることで、質的にバラツキある専門業務を 安定した事務レベルにシフトさせるための音質作りの アルゴリズム と GUI です。

段階	年	経緯
第1段階	2015	音質の商品規格化を可能とし、音質決定の業務の事務レベル化を図ることで、海外生産に懸念される 車種ごとの音質のバラツキ を抑えたい。
第2段階	2015	音質調整の自動化に向けての GUIの機能 の整理と基本設計
第3段階	2016	当社の 音質チューニングアルゴリズム7Fs を制御できる 音質自動設定GUI 完成